

1 議事

委員長選任

代理者指名

議論1：テーマ「20年後の熊本市の将来像」

議論2：テーマ「今後の土地利用方針はどうあるべきか？」

2 委員会の日時及び場所

日時 令和5年(2023年)7月13日(木) 午前10時開会

場所 熊本市役所 議会棟2階 教育市民委員会室

3 委員等

別紙のとおり

4 議事の経過

(1) 開会

【事務局】

- ・開会
- ・挨拶

(2) 委員長選任、代理者指名

【事務局】

- ・委員長に柴田委員が選任(運営要綱第3条)
- ・代理者に本間委員が指名(運営要綱の第3条第6項)

(3) 議論

【事務局】

- ・事務局から配布資料の以下の内容について説明。
 1. 熊本市第7次総合計画
 2. 都市計画区域マスタープラン
 3. 都市マスタープラン
 4. テーマ「20年後の熊本市の将来像について」
 5. 土地利用制度について
 6. 現状と課題
 7. 議論の背景と検討事項(案)
 8. テーマ「将来を見据えた今後の土地利用方針はどうあるべきか？」
今後の予定

議論1：テーマ「20年後の熊本市の将来像」

【柴田委員長】

- ・中央区や東区はほとんどないが、北区、西区、南区周辺は、過疎化しているところもあり、多様な土地利用の問題の多様さを考慮に入れながら考えていきたい。

【本間委員】

- ・低未利用地をどうするのかというのは大きな問題であり、車社会を見直すべき段階に来ていると思う。
- ・熊本市もヨーロッパのように部分的にウォークアビリティの高い都市を目指せると考えている。中心市街地、中心部の車の排除、車の流入を減らすことが、交通渋滞の緩和にもつながると思う。中心部は歩いて楽しめるまちにしたい。
- ・地域拠点同士が中心部を経由せずにより便利につながる方法はあるのではないかと考えている。
- ・地域拠点にも優先順位というか、集中と選択ということを考えた方向性、それぞれ地域拠点の開発等の方向性も考えるべきと考えている。

【小島委員】

- ・農業は大丈夫なのか心配しており、農地や農業従事者などを守っていけないのかと思っている。
- ・熊本はたくさんの農作物、海の幸、山の幸というのが非常に豊富で、安くて、それで暮らしやすいので、なるべく農業もなくさないでほしい。

【吉城委員】

- ・熊本市は渋滞がワーストワンと言われ、産業道路はひどい状況。車に過度に頼り過ぎているので、今後、都市構造を車に頼らないようなまちとしていくことが大事。
- ・2040年あるいは2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、いろいろな部門での取り組みが求められており、暮らし方からゼロカーボンを達成していくような都市基盤、都市構造というものも考えていくことは一つの視点。
- ・世界的な食糧不足が懸念されているので、いかに、自給自足、自給率を高めていくのかという点、農業の保全も、大事な視点。

【藤井委員】

- ・バスが時間どおりに来ない。
- ・都市のあり方、都市部に流入するトラフィックを少し減らすことも考えてみたらどうかと感じた。
- ・田舎では、平面でのスポンジ化が進んでいくのをどう止めるのかを考えないといけない。市街地では、空きビル、ビルの空きテナントがあるので、垂直方向のスポンジ化にも対応しなければならぬのかなと考えている。

【竹内委員】

- ・地域のコミュニティーは非常に重要であり、災害履歴を知らなくても、土地の特性を知らなくても、コミュニティーがあることによって声の掛け合いがあって、早期の避難に結び付きたりすることが分かってきている。
- ・3つの拠点ぐらいを公共交通で、時間に間に合うように動けると良い都市になると思う。

議論2：テーマ「今後の土地利用方針はどうあるべきか？」

【本間委員】

- ・集落内開発のエリアでの開発が多い。合併の経緯を考えると仕方がないが、拡大縮小と単純には考えられないので、災害リスクの高いところとそうではないところ、あるいは人が結構集まっているところと、今後、発展しそうな場所なのか、あるいは居住誘導区域に近いところとか、幹線道路に近いところとか、そういった、市街化調整区域内の開発の考え方を事前にまとめておくのがよいと感じている。

【竹内委員】

- ・線引き時に災害リスクは非常に重要な要素になる。
- ・市街化調整区域であったり、集落内開発のエリアにおいて、浸水リスクが高いエリア（高潮も含めて）、その地域に関しては、都市が安全であることが重要だと思うので、そこではしっかりと縮小の方向での線引きをお願いしたい。

【吉城委員】

- ・今後の開発、土地利用規制の考え方として、いかに都市の軸を考えて、その公共交通、交通を考えて、そこに人がどう住んでもらうのかということを考えていく必要があると思っている。
- ・2040年に向けて、自動運転の普及が進んでいくことが想定され、2040年で75%ぐらいが自動運転に置き換わるという想定がある。自動運転の普及が進むと、郊外に住むことの抵抗がなくなるため、自動運転の動きも見据えて、歩いて暮らせるような土地利用というのを考えていく必要がある。
- ・自動運転が普及すると、中心部の駐車場が要らなくなることが想定されるため、中心市街地の駐車場のあり方も今後変わっていき、中心部の高度利用の土地利用が交通と絡めた議論になる。
- ・公共交通の自動運転も一般道において今後普及していくのではないかと思う。

【柴田委員長】

- ・立地適正化計画が公共交通を軸に考えるという組み立てになっているが、熊本に限らず、どの都市も公共交通が非常に脆弱なのに、立適という長期スパンの土地利用を、それに拠っているのか疑問であり、公共交通のあり方も、今後20年考えたら変わっていく可能性もあり立適自身の考え方も、変わっていくことも想定されるということを感じた。

【本間委員】

- ・駐車場が多いことが一番の問題とされていて、駐車場がなければ車では行かないので、渋滞を減らすには、車を減らせばいい。駐車場をつくらせない、廃止していく考え方がいいと思う。
- ・あるいは、まち中の道路事情を、車にとって不便にしていこうという考え方もある。歩行者天国を増やして、まち中に車で行くこと自体が面倒くさいとか、コストがかかるとなれば、公共交通を利用ということなると思う。
- ・駐車場は決して、活性化にならないので、少し市街地の駐車場の抑制も検討してはどうか。

【柴田委員長】

- ・熊本市自身が工場を誘致する必要があるのか。工場立地は、周辺の大津、菊陽、合志、益城等に任せて、熊本市はその関連の方々の住宅誘致もあるのではないかと思う。

【本間委員】

- ・サンノゼでは、単に工場だけでなく、それに関連するいろんな企業、人が集まってくるという状況。市街化調整区域に工場だけ立地誘導して、そこに工場ができた場合、そこからさらに発展する可能性は当然出てくるが、市街化調整区域内は、発展はさせられないところ。そうすると、市内に企業を集められるのか、そういう可能性も出てくると思うので、合わせて考えていくのがよいと思う。
- ・周辺に農地等の環境問題を犠牲にしてまで大規模な誘致をするのかは検討すべきだと思う。今、市が設定しているのが、高速道路沿いで、もともと開発が可能なところなので、調整はできると思う。

【小島委員】

- ・インターの周辺はもともとの森林を大方取り払って、比較的環境への影響というのは少ない。インターの近くだから住宅地には適さないし、逆に、工場だと交通の便がよい、そういうところであればよいと思う。

【藤井委員】

- ・先に、産業立地が進んでいる中で、土地利用のあり方を考えるというのが、後から走って追いかけているという構図で考えることを難しくしていると思う。一方で、やはり未来のシリコンバレー熊本版になる可能性も消さないために、どう土地を使っていくのかを考えるのが重要と思う。

【柴田委員長】

- ・利用されていないが、適正に管理されている状況が望ましい。全部を営農できないし、空き地、空き家が全部埋まるということは多分ない。そこの適正な管理が土地利用的には重要と思う

【小島委員】

- ・環境の観点で、脱炭素化に向けて、熊本は車が多過ぎて、各所で渋滞が起こっている。市内に入る車を制限して、その代わりに市内に入るためには、バスを使うとか、そうなれば、理想的だが、現実的に考えて、可能なのか。この20年間で、大々的にやらないと無理だと思う。

【本間委員】

- ・大胆にやるということでは、熊本市が大胆にやったのは桜町だと思う。あれだけの大きな通り、道を、道路を廃止して公園にするというのは、画期的なこと。しかもバスセンターのメインの通りを公園化したというのはすごい。あれは熊本の未来を変えるようなことかなと感じている。
- ・民有地とか、民間の駐車場をどうこうするというのは、基本的にはできない。道路であれば、いろいろな手法で行政的にはコントロールしていける。
- ・例えば、通町筋の車を排除してしまう。バスとかタクシーの一部はOKでトランジットモール化をする。通町筋に入れないのであれば、そこにつながる道は使いたくなくなり、駐車場もそれを考えて民間も動き始めるというところがある。今後は、道路をいかにコントロールしていくのか。

【藤井委員】

- ・ロードプライシングみたいなのをもし入れた場合、どれぐらい熊本で機能するのか。

【吉城委員】

- ・もし実現すれば、非常に大きな効果があると思う。例えば、流入する交通量が1割減れば、渋滞が半減することも検証されている。渋滞をなくすためには、車を大幅に減らす必要はなく、ほんの少し減らせれば、ある程度、渋滞は解決していく。

【小島委員】

- ・渋滞の問題というのは、ワースト1位ということもあり、何とかしなければならぬ。

【柴田委員長】

- ・私が気になるのはやはり災害。土地利用的にできることがどこまであるのか。新規開発は避けましようとは言える。一方、既成市街地に対してどういうことができるのかも実は大きい問題ではと思う。

【竹内委員】

- ・ハードとソフトの組合せが非常に重要なので、土地利用規制等がハード的な方針の一つかと思うが、ソフト的なところとどう組合せていくのか。
- ・全部ハードではできない。集落内開発にしても、ソフトでカバーすることは、可能だとは思う。
- ・地形的に孤立をしてしまうようなところであれば、それは強い規制が必要になってくるかと思う。
- ・市役所は浸水が想定されているので、このまま、ここの機能を中心地において、維持するのは重要だと思うが、浸水想定以外のところに非常時の拠点をつくるとか、考えておく必要があるのではないか。
- ・ソフトとして、浸水想定外のところに防災拠点を熊本市として持っているのだから、平時の利用はここが可能であるという説明がつくのであれば、平時の利用というのは可能だと思う。

【本間委員】

- ・ハードでは、3階建てがメインで、1階はピロティとして、メイン利用はしない形で、住宅化を進めてもよいのかなと思う。

【柴田委員長】

- ・浸水に関しては、浸水を前提とした都市のあり方みたいなことは考えていく必要があるのではないか。

【本間委員】

- ・市民生活、良質な市民生活はよい考えで大事だと思う。
- ・観光あるいは熊本城をはじめとする歴史文化、景観など文化的な側面、あるいは教育的な側面というのを土地利用の方針として示すべきと感じている。そういった観点で土地利用を見直せないかという部分もチェックするのがよい。

(4) 閉会

【事務局】

- ・閉会

熊本市土地利用方針検討委員会

委員名簿

(50 音順)

熊本大学 大学院 先端科学研究部 准教授	小島 知子
熊本県立大学 環境共生学部 教授	柴田 祐
熊本大学 大学院 先端科学研究部 教授	竹内 裕希子
熊本県立大学 総合管理学部 准教授	藤井 資子
熊本大学 大学院 先端科学研究部 教授	本間 里見
熊本大学 くまもと水循環・減災研究教育センター 准教授	吉城 秀治